

学番	1 1	新潟県立新潟翠江高等学校 通信制課程
----	-----	--------------------

令和元年度 学校自己評価表

学 校 運 営 実 施 報 告		
学 校 運 営 方 針	1 単位修得、学び直しの支援体制の整備と具体化 基礎学力の定着と粘り強い指導、出席率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 豊かな感性や社会性、規範意識を育む組織的な教育の充実と具体化 自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践生徒の安全確保と事故防止 3 生徒の進路希望の実現に向けたキャリア教育の充実と具体化 社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 主体的な進路設計を伴った、将来の自立を促す教育の充実 キャリア教育推進委員会等と連携した就労支援の充実	
昨年度の成果と課題	令和元年度の重点目標	具体的目標
(教務部) [成果] ・平均単位フル修得率は56.6%（前年度53.3%）で、前年度と比べて3ポイント上がった。1年次科目の平均単位修得率も 47.6%（前年度39.8%）で、大幅にポイントを上げた。 また、1単位以上単位を修得した生徒の割合は、77.8%(前年度 74.3%)と過去5年間で最高の数値であった。フル修得は不可能となったが半単位の修得を目指して、担任が生徒を励まし丁寧に指導した結果である。 ・卒業者は218名（3年生の実働の74.7%）で目標値まであと一歩という結果であったが、高い数値を維持している。 ・特別支援教育推進委員会と連携し、レポートの表紙について記載形式の統一化をし、表紙の色を教科別に分けた。 [課題] ・単位修得率は、①前期のレポート合格率、②スクーリング出席率の増減を大きく反映している傾向全く学習活動をしていない生徒や、精神的に問題を抱えている生徒など多様な生徒が在籍している現状において、スクーリングの出席を強制することは難しいが、生徒の状況に応じて丁寧な助言や指導を行う必要がある。 (生徒指導部) [成果] ・バスケットボール部（男子：県選抜メンバーとして）、バドミントン部（女子：個人）で北信越大会優勝、バドミントン部（女子：個人）で全国大会出場を果たすなど、生徒が主体的に取り組み成果を上げる場面が多くみられた。 [課題] ・校地内での喫煙について、依然として吸殻が多く	単位修得、学び直しの支援体制の整備と具体化 ・基礎学力の定着と粘り強い指導 ・出席率・修得率の向上 ・定通併修制度の充実	・スクーリング・報告課題の添削指導の充実。 ・スクーリング日以外の生徒への学習支援のための個人指導の充実。 ・平均単位修得率60%以上、必修科目などの1年次科目の単位修得率50%以上の達成。 ・卒業者数3年次実働生80%以上の達成。
	健康で、豊かな感性や社会性、規範意識を育む組織的な教育の充実と具体化 ・自律性の育成と規律の維持 ・教育相談の充実 ・人権・同和教育の実践 ・生徒の安全確保と事故防止 ・発達障害を抱える生徒や特別支援が必要な生徒の指導や支援、特に就労支援の充実	・学校行事への積極的な参加を促し、集団における望ましい人間関係づくり。 ・教育相談や健康教育の充実。 ・いじめが無く、人権が尊重される集団づくり。 ・校地・校舎内における禁煙指導の徹底。 ・貴重品等の自己管理の徹底。 ・発達障害を抱える生徒や特別支援が必要な生徒の支援を行い、関係諸機関と連携を図る。
	生徒の進路希望の実現に向けたキャリア教育の充実と具体化 ・社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 ・主体的な進路設計を伴った、将	・進路指導の行事を精選充実させる。 ・適切な指導で、生徒の興味・関心・適性を把握して、望ましいキャリア発達を促す。

見られ、さらに継続した指導が必要である。 (進路指導部) [成果] ・進学及び就職とも、情報収集に力を入れ、就労支援コーディネーター等との連携を密にすることで、生徒のニーズに合ったより実践的な指導を行い実績をあげることができた [課題] ・自らの進路希望を達成する生徒がいる中、進路未定のまま卒業していく生徒も多い。 この実態を踏まえ、在学時にキャリア発達を促すことのできる方策を各部署や外部団体と連携しながら模索していく必要がある。	来の自立を促す教育の充実 ・キャリア教育推進委員会等と連携した就労支援の充実	・個に応じた進路目標達成のための組織的な支援を図る。 ・郷土への興味・関心及び貢献意欲を高めるための教育活動の充実を図る。 ・キャリア教育推進委員会や就職支援コーディネーター、関係各分掌等と協力しながら、学校組織全体として生徒の就労を計画的かつ継続的に支援する。
--	---	---

重点目標	具体的目標	具体的方策	中間評価		
単位修得、学び直しの支援体制の整備と具体化 ・基礎学力の定着と粘り強い指導 ・出席率・修得率の向上	授業および報告課題の内容・指導方法の改善を図る。	生徒、保護者に授業や学校生活に関するアンケートを行い、その結果を改善の参考として利用する。			
		授業や報告課題、添削に対する生徒の意見聴取を行い、授業の内容や方法、報告課題の内容や添削方法の工夫と改善を図る。			
	生徒一人一人が自己の学習目標を達成し、単位修得や卒業につながるような継続的な指導をする。	受講手続時に、生徒一人ひとりの興味、関心、進路希望、卒業条件等に配慮した履修指導を行う。			
		スクーリング出席や報告課題提出状況を定期的に確認し、生徒自身が自主的・計画的に学習を進めることができるように適切な学習指導を行う。			
		生徒一人ひとりに寄り添った指導を念頭に置きながら、単位修得率や卒業者数などの一層の向上を図る。平均単位修得率60%以上、1年次科目の単位修得率50%以上、卒業者数は3年次実働生の80%以上を目標とする。			
	生徒の学習意欲を引き出し、基礎学力の向上を図る。	学校行事や学校生活、学習内容などをより的確に生徒および保護者に知らせるため、月報の内容の充実を図る。			
健康で、豊かな感性や社会性、規範意識を育む教育の充実と具体化 ・自律性の育成と規律の維持 ・教育相談の充実 ・人権・同和教育の実践 ・発達障害を抱える生徒や特別支援が必要な生徒の指導や支援、特に就労支援の充実	学校内外における生活マナーの向上を図る。	生徒が提出する報告課題に対して、きめ細やかな添削指導を行い、生徒自ら学ぶ意欲を引き出す。			
		学習内容の理解が不十分な生徒や質問のある生徒に対して、スクーリング以外の日においても積極的に登校することを呼びかけ、指導する。			
		月報、生徒指導部だより（毎月報に掲載）、「学習の手引き」、掲示物等で学校内外の生活マナーの向上と交通安全意識の高揚を目指す。			
	未成年者の禁煙指導の充実と努める。	全教員でスクーリング日の校舎内および校地内の巡回指導を行う。			
		警察等の外部機関と連携を取りながら適切な指導を行う。			
	学校行事や部活動への積極的な参加を促す。	巡回による校舎内および校地内における禁煙指導を徹底する。			
		薬物乱用防止講話を実施し、保護者に対しても協力を働きかける。			
	生徒理解の充実と生徒の自己実現を援助する。	異年齢集団の一員としての自覚を持ち、協力的な態度を育てる。部活動（加入生徒数40名以上）、運動会（参加生徒数120名以上）、新入生歓迎会・生徒交流会（参加生徒数25名以上）、体験学習（参加生徒数30名以上）、生活体験発表会等の行事に積極的に参加させることで仲間づくりを促し自主性、社会性を養う。			
		部活動の在り方を見直し、適切な部を設置する。			
		生徒理解とそれに関わる校内研修（年2回）を実施し、生徒の悩みに傾聴し、受容的・共感的な姿勢で教育相談を行う。「生徒理解のためのアンケート」の実施や「連携シート」等を利用して生徒理解に努める。			
	安心、安全な学習環境を整える。	養護教諭、外部機関等との連携を図りながら、さまざまな問題・悩み・困難を抱える生徒を支援する。			
		さまざまな問題を抱えた生徒や保護者と、より良い連携を図るために個別面談や保護者情報交換会（年2回）を実施し、保護者と生徒に対する具体的な支援の方法を見つける。			
		不審者対策指導として、校内履き（指定シューズ）着用を徹底させる。私物および貴重品等は各自の責任でしっかりと管理させる。			
	健康教育の充実を図る。	校舎内外の安全点検を定期的に行い、速やかな異常の発見に努め、早期改善を図るとともに、校舎内外の清掃や美化に心がける。			
		救命法講習会を実施し、救命の知識や技能を高める。			
	いじめがなく、人権が尊重される集団づくり	養護教諭と連携を密にして、生徒健康診断や集会、HR等で生徒の健康管理意識の向上に努める。			
		年3回「保健だより」を発行し、または必要に応じた文書を発行する。			
		全学年で人権・同和教育授業を実施し、お互いの人権を尊重し、人権が尊重される学校づくりを行う。			
		人権・同和教育講演会を行い、教職員が研鑽を積むとともに、生徒の参加を募り、差別の現実に学びながら人権を尊重する姿勢を育む。			
		各種研修会に参加し、生徒の指導及び理解に役立てる。			

重点目標	具体的目標	具体的方策	中間評価		
生徒の進路希望の実現に向けたキャリア教育の充実と具体化 ・社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 ・主体的な進路設計を伴った、将来の自立を促す教育の充実 ・キャリア教育推進委員会等と連携した就労支援の充実	入学時より卒業後の進路を考える機会を設け、より多くの生徒が卒業後の目標を設定できるように指導する。	進路希望調査を行い、生徒の実態を把握する。			
		進路全般に関する内容から、進学・就職指導の具体的な活動方法までを掲載した「進路の手引き」を編纂し、生徒の進路に対する意識を高める。			
		「進路だより」を毎月発行し、進学・就職に必要な情報や校内のキャリアガイダンスの実施情報を生徒及び保護者に発信する。			
		キャリアガイダンスを適時実施し、進学や就職の意義や進路実現のために必要な事柄を理解させる。			
	生徒の進路希望を達成させる環境を整備する。	生徒一人ひとりの希望に応じた進路相談、面接指導、小論文指導等を実施する。			
		オープンキャンパス・学校説明会・職場見学会等への参加を促す。			
		県内各地域のハローワークとの連携を密にし、就職に結びつくように支援する。			
		各事業所に対して、通信制の生徒への理解を働きかける。			
	生徒の就労に対する意識を高めるとともに具体的な行動を促す支援を充実させる。	キャリア教育推進委員会や就職支援コーディネーターと連携し、生徒の職業意識形成に資するとともに、主体的に進路選択をする意識を醸成させるため、就労支援対策の拡充を行う。			